

# 特用林産物の供給と地域振興について

飯山・水内担当区事務所 寺 沢 春 男  
小赤沢 “ 桂 川 佳 之

## 要 旨

栄村地域は、地理的、地形的条件から山菜となる植物の種類も多く、また量も多い。これらの特徴を生かした産物の利用は、国有林を中心に行われ、人々の生活に深くかかわっている。

下水内郡栄村地域の特用林産物を供給面からみて、国有林からの供給と、将来性についてまとめた。

## はじめに

下水内郡栄村地域は、地理的、地形的条件から山菜となる植物も多く分布し、量も多い。他地域にない群落を形成しているものもある。これらの特徴を生かした林産物利用は、国有林を中心に行なわれており、その地域の人々の生活に深くかかわっている。

特用林産物が林業振興の一助として、その消費が注目されている中で、栄村地域の特用林産物を供給面からみて、実態を追跡調査し、今後の動向をふまえて、国有林からの供給と将来性について発表する。

## I 地域の特徴

下水内郡栄村は、長野県北部で新潟県に接し、苗場山、烏甲山を含む面積約27,000 ha の地域で我国有数の豪雪地帯であり、林野面積は93%に達し、このうち約14,000 haが国有林野面積である。(図-1, 図-2参照)

地域別就労形態は表-1に示すとおりで第1次産業が55.3%と周辺市町村と比較して高く、農林業を主体とした地域である。

表-1 = 産業別就労形態 = (S55国調)

市町村別 産業別	栄 村	津 南 町	木 島 平 村	飯 山 市
第1次産業	55.3 %	46.0	44.2	43.0
第2次産業	20.9 %	23.0	24.8	22.0
第3次産業	23.8 %	31.0	31.0	35.0
就 労 人 口	2,241 人	8,051	3,497	17,080

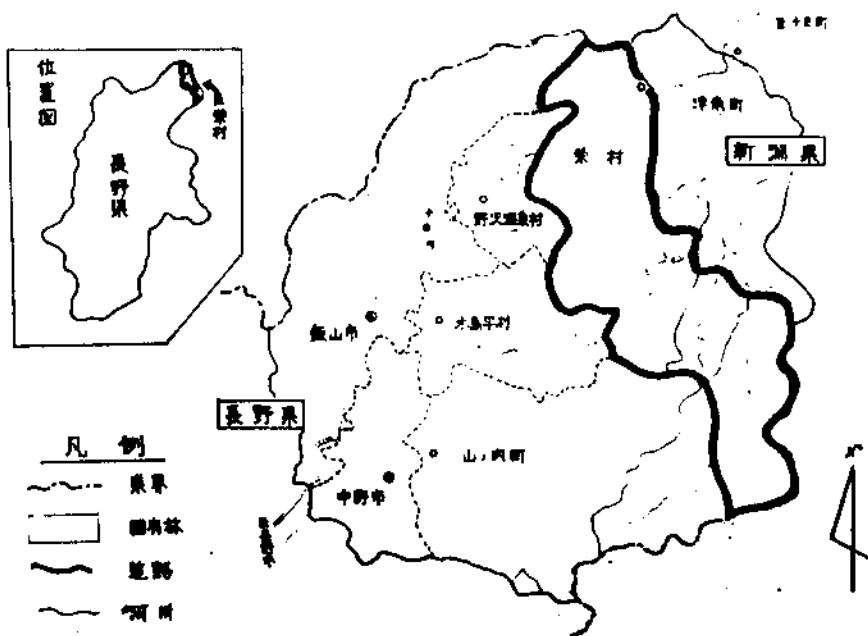


図-1 栄村周辺図

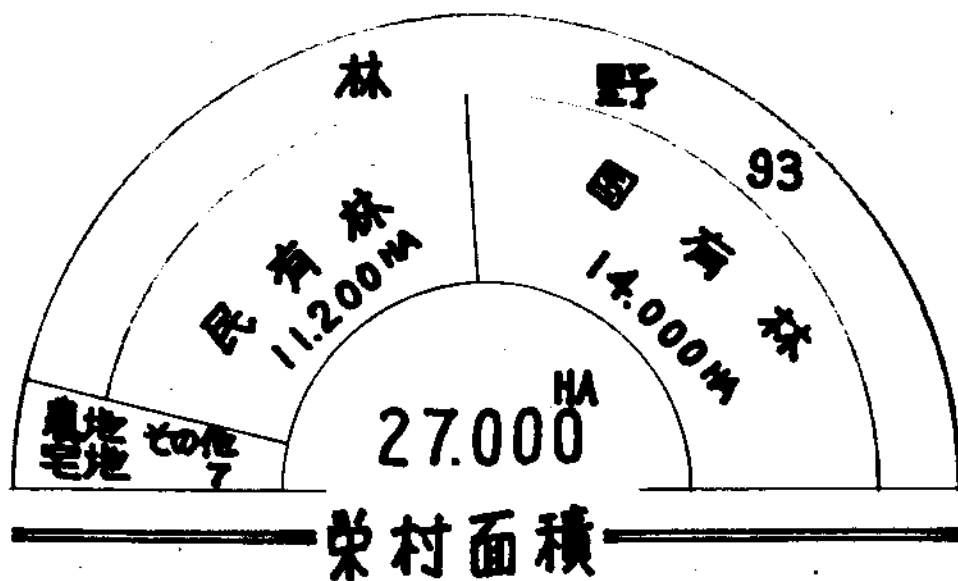


図-2 栄村の利用区分面積

## II 特用林産物の生産量

栄村における特用林産物の販売額は1億6千万円である(昭和58年実績, 栄村調)。栄村で取引された産物の販売量と, 当地域国有林野からの販売量を比較したものが図-3(共用林野を除く)であるが, 国有林野から直接原木支給のない, オガナメコ, その他キノコを除いて, 国有林野からの販売量は21,300kgで栄村で販売された量の約28%を占め, 特にフキについては11,000kgで55%を占めている。

共用林野からの生産量は(54~58年平均)図-4のとおりで, 管内全体で61,300kgになる。このうち栄村地域においては7,400kgを占め, 生産時取引価格にして約130万円相当となる。フキ, フキノトウ, クサソテツ(コゴミ), ウド, マタタビにおいては, その生産量の80%から100%を占めている。

次に管内における, 特用林産物販売量の5カ年間(55~59年)の推移を見ると表-2のとおりであるが, 特に花木類の販売が伸びてきており, その金額も59年度で99万7千円となっている。

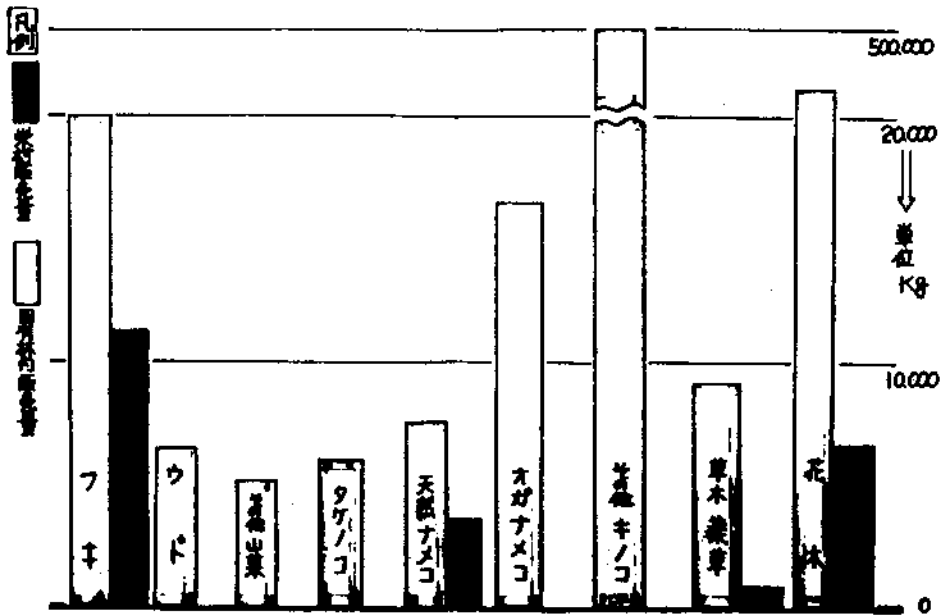


図-3 栄村販売数量対国有林内販売量 (当村内)

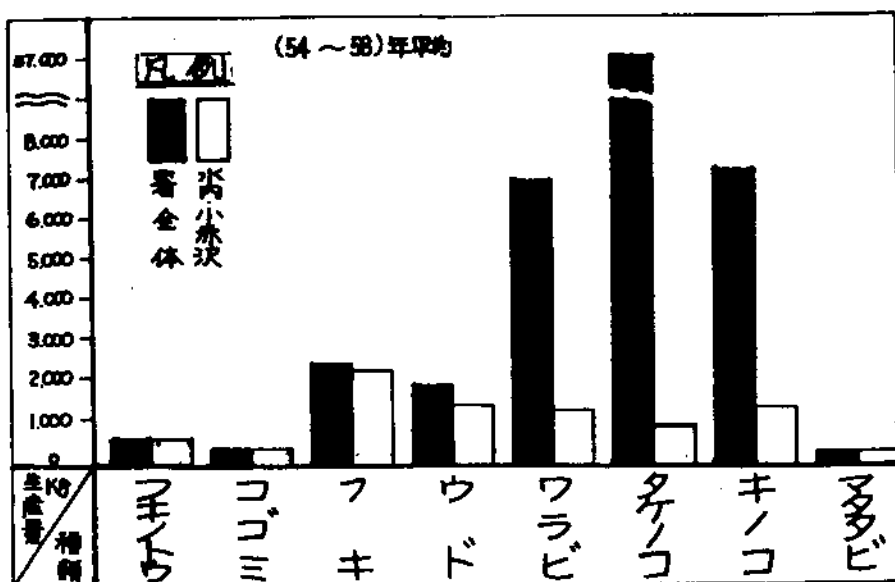


図-4 共用林野から採取された産物

表-2 特用林産物供給量年別推移 (飯山営林署管内)

産物	年度	55	56	57	58	59	備考
(山菜)	ウド	200 kg		500	1,000	1,000	59.販売額 円 38,000
	フキ	33,000 "	31,000	31,000	31,000	32,000	271,000 "
天然キノコ		5,000 kg					
根曲竹		140 束	160	60	100	130	26,500 "
薬木薬草		50 束	90			360	
(花木)	オオカメノキ	858 束	1,473	1,535	2,170	1,450	} 997,000 "
	ナナカマド	234 "	134	453	910	920	
その他				62	20	20	
ギョウジャニンニク						50 kg	3,300 "

★ナメコ資材については、56年の1,136 m<sup>3</sup>をピークに年々減少傾向にある。キハダ樹皮においては年平均11,000 kgを販売。

### Ⅲ 現状と今後の取組

当地域の特産林産物の需要と供給の面から、調査結果を取りまとめでみると表-3のとおりである。

#### 1. 山菜について

山菜の宝庫として知られる当地域では、産物と地域の労力を生かして、地場産業の役割を担っており、地元山菜加工組合、山菜加工業者、森林組合を中心に販売されている。

フキ、ウドの国有林からの供給量はそれぞれ、32tと1tであるが、その需要は活発であり、収量の増大が望まれている。特に、フキにおいては、高品質のため特産化されている状態にある。

その他の山菜については、共用林野からの採取でその量は2tである。一部販売に供されているものもあるが、主に自家用である。

タケノコについては、共用林野からの採取で、その市場性もあり、多くは商品化され、その需要も大きい。

#### 2. 花木、薬木について

花木、薬木としてのオオカメノキ、ナナカマド、クロモジ等は、当地域に群生しており、その市場も安定して、農林業における冬期間の収入を凶るため、年々需要は増大している。国有林野からの処分量は約650束であり、安定供給が望まれている。

#### 3. キノコ類について

栽培キノコ類は、その技術の向上により、年々生産量が増えているが、それに伴うオガ粉不足が生じている。原木キノコの生産量は3.3tであるが、原木供給は年々減少傾向にある。

表-3

現 状 と 今 後 の 取 組

品 名	需 要 の 現 状	今 後 の 課 題
フキ	3業者へ処分量32t	事業的規模で採算のとれる適地の拡大
ウド	1業者へ処分量1t	〃
その他山菜	共用林野から採取2t	◎国有林の収入に結びつくような販売方法の確立 ◎共用林との調整
タケノコ	共用林野から供給	〃
原木ナメコ	4業者で3.3t	原木供給の拡大
その他のキノコ	収穫量が伸びている	} オガ粉供給の拡大
オガナメコ	原料オガ粉不足	
薬木	需要が伸びている	} 資源の保続を考えた計画的処分方法の確立
花木	5業者へ処分量650束	

#### 4. 総括……今後の取組、留意事項

- (1) 既に産業として地盤形成のあるもので事業的規模で採算のとれる適地の拡大を必要とするもの—フキ、ウド。
- (2) 販売面と制度に問題があるが、国有林野事業の収入に結びつくような販売方法の確立と、共用林野の調整を必要とするもの—タケノコ、その他の山菜。
- (3) 資源の枯渇が考えられるもので資源の保続を重点にした計画的処分方法の確立と、採取適地の拡大を図るもの—花木、薬木。
- (4) 資源の有効利用すなわち伐採跡地の末木枝条、端材の利用の拡大を図るもの—オガナメコ、原木ナメコ、その他のキノコ。

#### IV まとめ

栄村における特用林産物供給の実態を見て、この地域に果たしている国有林の位置づけについてまとめてみた。

##### 1. 地域への寄与

第一次産業を主体とする地元住民に、供給を拡大することにより、地場産業の拡大と、地域住民の就労の場を確保することができる。

##### 2. 国有林野事業の有利性

- (1) 資源の有効活用が図られる。
- (2) 収入の増が図られる。

#### おわりに

国有林野事業が各方面から注目されている中で、地域性ある産物をより有効的に活用し、資源を長期安定的に供給し、経費節減とともに、収入の増大を図り地元需要に積極的に応えていくことが、地域振興に貢献する鍵となる。

最後に栄村という小さな地域ではあるが、地域と国有林を結ぶかけ橋となるよう努めてまいりたい。